

コ ー ス	解剖学 I (Anatomy)		
学年・期・単位	第1学年・前期・後期・2単位	科目担当責任者	高橋 常男 (人体構造学講座 肉眼解剖学・教授)
オフィスアワー	毎週水曜日放課後～18:00 (第2研究棟5階高橋常男教授室) 及びEメールにて受付けるので連絡すること。	メールアドレス	高橋：tsuneo@kdcnet.ac.jp 飯村：aiimura@kdcnet.ac.jp
一般目標 (GIO)	医学・歯学の出発点である人体の形態と構造を系統的に理解する。これらの構造を立体的に把握することは特に重要であり、アトラスやスライド等の画像を通して理解を深め、それぞれの臓器の相互の位置関係と影響を考察する。同時に、構造と各部位の名称との関係を理解し基本的解剖学用語を身につける。		

講義ユニット	一般目標 (GIO)
1. 総論	解剖学の歴史を学び、基礎医学の中での解剖学の位置づけを理解する。
2. 骨学	全身骨格の基本的構成とそのつながりを理解する。
3. 筋学	骨格筋の骨格との結合とその働き、および体腔の構成を理解する。
4. 脈管学	心臓の構造、血管系およびリンパ系とそのつながりを理解する。
5. 消化器	消化管系の構成と消化腺の結びつきと身体における位置関係を理解する。
6. 呼吸器	気道の構成と肺の構造、発声器の構造、身体における位置関係を理解する。
7. 泌尿器	腎における尿の生成の仕組み、尿管・膀胱・尿道の尿の輸送と蓄積、排泄を理解する。
8. 生殖器	女性、男性の生殖器の形態と身体における位置関係を理解する。
9. 内分泌腺	内分泌臓器の身体における位置と主な構造を理解する。
10. 神経系	中枢神経系と末梢神経系、自律神経系の構造とつながりを理解する。
11. 感覚器	視覚器、聴覚器、嗅覚器の構造と働きを理解する。

教科書		
書名	著者名等	発行所
A 人体解剖学	藤田恒太郎	南江堂
B 解剖学カラーアトラス	横地千仞他	医学書院

参考書		
書名	著者名等	発行所
イラスト解剖学	松村譲児	中外医学社
カラースケッチ解剖学	Wynnkapit/Lawrence M.Elson 嶋井和世 監訳	広川書店
人体解剖学ハンドブック	大谷 修 監訳	西村書店
グレイ解剖学 第1版	塩田浩平 他訳	エルゼビア・ジャパン
グレイ解剖学アトラス 第1版	塩田浩平 訳	エルゼビア・ジャパン
トートラ解剖学 第2版	千田隆夫 他訳	丸善出版

評価法 (EV)
レポート (10%)、前期中間試験、前期本試験・後期中間試験、後期本試験 (客観試験 (90%)) による総合評価。

授業計画						
回	日付	ユニット	行動目標 (SBOs)	学習方略 (LS)	授業担当者	コアカリ/国試出題基準
1	4/11	総論骨学	1. 解剖学の歴史、基礎医学の中で解剖学の位置づけを概説できる。 2. 骨学 (全身) 全身骨のつながりと主な骨の名称を概説できる。	A P11~81。ポイントを板書きし、パワーポイントにより解説する。	高橋常男	D-2-3)-(2)-① 総Ⅲ -2、2-A
2	4/18	骨学	骨学 (頭蓋) 頭蓋骨の構造と解剖学名の概説ができる。	A P69~81。ポイントを板書きしながら解説する。	高橋常男	D-2-3)-(2)-① 総Ⅲ -2-A
3	4/25		1. 骨学椎骨による脊柱の構成を概説できる。 2. 骨学胸郭の構成を概説できる。	A P69~81。ポイントを板書きしながら解説する。	高橋常男	D-2-3)-(2)-① 総Ⅲ -2-A
4	5/2		骨学 (上肢と下肢の骨格) 上肢と下肢の構成と体幹との連結を概説できる。	A P82~103。ポイントを板書きしながら解説する。	高橋常男	D-2-3)-(2)-①、② 総Ⅲ -2-A
5	5/9	筋学	筋学Ⅰ 頭部の筋の一般性と頭・顔面の筋の構造を概説できる。	A P106~123。ポイントを板書きしながら解説する。	高橋常男	D-2-3)-(2)-① 総Ⅲ -2-A
6	5/16		筋学Ⅱ (頸・背部の筋) 頸の前部・後部の筋と体幹背側の筋を概説できる。	A P124~132。ポイントを板書きしながら解説する。	高橋常男	D-2-3)-(2)-① 総Ⅲ -2-A
7	5/23		筋学Ⅲ (胸腹部の筋) 胸壁、腹壁を構成する筋を概説できる。	A P132~139。ポイントを板書きしながら解説する。	高橋常男	D-2-3)-(2)-④ 総Ⅲ -2-A
8	5/30		筋学Ⅳ (上肢と下肢の筋) 上肢および下肢の筋を概説できる。	A P139~164。ポイントを板書きしながら解説する。	高橋常男	D-2-3)-(2)-④ 総Ⅲ -2-A
9	6/6	脈管学	脈管学Ⅰ (総論) 心血管系の構成とつながりを概説できる。	A P302~319。ポイントを板書きしながら解説する。	飯村 彰	D-2-3)-(3) 総Ⅲ -2-D
10	6/13		脈管学Ⅱ (心臓・動脈系) 心臓の房・室・弁大動脈の構成を概説できる。	A P319~340。ポイントを板書きしながら解説する。	飯村 彰	D-2-3)-(3) 総Ⅲ -2-D
11	6/20		脈管学Ⅲ (動脈・静脈系) 全身の動脈・静脈系の特性を概説できる。	A P341~363。ポイントを板書きしながら解説する。	飯村 彰	D-2-3)-(3)-① 総Ⅲ -2-D
12	6/27	脈管学	脈管学Ⅳ (リンパ系) 全身のリンパ系の特性を概説できる。	A P363~376。ポイントを板書きしながら解説する。	飯村 彰	D-2-3)-(3)-② 総Ⅲ -2-D
13	7/4	消化器	消化器Ⅰ (総論と腹膜) 消化管と消化腺の基本構成と腹膜を概説できる。	A P174~180。ポイントを板書きしながら解説する。	飯村 彰	D-2-3)-(3)-② 総Ⅲ -2-B
14	7/11		消化器Ⅱ (口腔、食道、胃) 口腔、食道、胃のそれぞれの構成とつながりを概説できる。	A P182~211。ポイントを板書きしながら解説する。	飯村 彰	D-2-3)-(6)-① 総Ⅲ -2-B
15	7/25		消化器Ⅲ (小腸、大腸) 小腸および大腸の構造特性と腹腔内での位置を概説できる。	A P211~231。ポイントを板書きしながら解説する。	飯村 彰	D-2-3)-(6)-② 総Ⅲ -2-B

授業計画						
回	日付	ユニット	行動目標 (SBOs)	学習方略 (LS)	授業担当者	コアカリ/国試出題基準
16	9/5	消化器	消化器Ⅳ (肝臓、膵臓) 肝臓および膵臓の構造特性と腹腔内での位置を概説できる。	A P222～231。ポイントを板書きしながら解説する。	飯村 彰	D-2-3)-(6)-②
						総Ⅲ -2-B
17	9/12	呼吸器	呼吸器Ⅰ 鼻・喉頭・気管・気管支の構造と構成を概説できる。	A P231～244。ポイントを板書きしながら解説する。	飯村 彰	D-2-3)-(7)
						総Ⅲ -2-C
18	9/26		呼吸器Ⅱ 肺、呼吸筋の構造と構成を概説できる。	A P245～248。ポイントを板書きしながら解説する。	飯村 彰	D-2-3)-(7)
						総Ⅲ -2-C
19	10/3		呼吸器Ⅲ 胸膜の構成と縦隔の構成を概説できる。	A P249～252。ポイントを板書きしながら解説する。	飯村 彰	D-2-3)-(7)
						総Ⅲ -2-C
20	10/17	泌尿器	腎臓の構造と尿の生成、尿管・膀胱・尿道の構造と尿路を概説できる。	A P252～262。ポイントを板書きしながら解説する。	飯村 彰	D-2-3)-(9)
						総Ⅲ -2-E
21	10/24	生殖器	子宮、卵巣、精巣・精巣上体・精管の構造とつながりを概説できる。	A P262～286。ポイントを板書きしながら解説する。	飯村 彰	D-2-3)-(10)
						総Ⅲ -2-E
22	10/31	内分泌腺	身体の内分泌腺の位置とそれぞれの構造を概説できる。	A P293～300。ポイントを板書きしながら解説する。	飯村 彰	D-2-3)-(8)
						総Ⅲ -2-H
23	11/7	神経系	神経系Ⅰ 総論と脊髄 神経系全体の構成と脊髄の基本構造と全体像を概説できる。	A P378～394。ポイントを板書きしながら解説する。	飯村 彰	D-2-3)-(6)-①
						総Ⅲ -2-F
24	11/14		神経系Ⅱ 脳 脳幹の構造と連絡繊維のつながりを概説できる。	A P395～410。ポイントを板書きしながら解説する。	飯村 彰	D-2-3)-(6)-①
						総Ⅲ -2-F
25	11/21		神経系Ⅲ 脳 終脳の構造と連絡繊維のつながりを概説できる。	A P411～430。ポイントを板書きしながら解説する。	飯村 彰	D-2-3)-(6)-①
						総Ⅲ -2-F
26	11/28		神経系Ⅳ 脳室と髄膜 脳室の構造と髄膜の特性と相互の位置関係を概説できる。	A P431～441。ポイントを板書きしながら解説する。	飯村 彰	D-2-3)-(6)-①
						総Ⅲ -2-F
27	12/5		神経系Ⅴ 脳神経と脳の位置関係の構造の特性を概説できる。	A P449～467。ポイントを板書きしながら解説する。	飯村 彰	D-2-3)-(5)-④
						総Ⅲ -2-F
28	12/12		神経系Ⅵ 脊髄神経と自律神経の構造の特性を概説できる。	A P467～513。ポイントを板書きしながら解説する。	飯村 彰	D-2-3)-(6)-①、-②
						総Ⅲ -2-F
29	12/13 5限	感覚器	視覚器の構造とつながりを概説できる。	A P524～536。ポイントを板書きしながら解説する。	飯村 彰	D-2-3)-(4)
						総Ⅲ -2-G
30	12/19	感覚器	平衡聴覚器の構造とつながりを概説できる。	A P536～545。ポイントを板書きしながら解説する。	飯村 彰	D-2-3)-(4)
						総Ⅲ -2-G

## 2年 編入 解剖学Ⅰ 補講

旧カリキュラムでは前期の解剖学の講義は週2コマであった。  
新カリキュラムでは週1コマとなるので、旧カリキュラムに対応する残り1コマ分に対応する授業を回数を限定して補講として行う。

予定

隔週で7回の補講を行う。

予定表

第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	第7回
4月11日	4月25日	5月9日	5月23日	6月6日	6月20日	7月4日

時間:月曜日4限目 解剖学Ⅰの授業終了後5限目の補講時間を使用して行う。  
授業内容:平行して行われている解剖学実習の理解の一助となることを目的に局所解剖学の講義を行う。